

2021年度 年次報告書



特定非営利活動法人

河北瀉湖沼研究所

Kahokugata Lake Institute

ごあいさつ

新たな目標 – 河北潟流域の連携

日頃より河北潟湖沼研究所の活動にご支援ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

2021年度も、コロナ禍の中で活動の工夫が求められた1年となりました。感染の波を予測しながらイベントの実施のタイミングを決めることは、宣伝の期間も含めて考えるとなかなか難しく、本来予定されていた連続ツアーなどの企画は、一部棚上げせざるを得ない状況もありました。しかし、オンラインによる会議の定着や、密を避けた野外活動の経験の蓄積から、いくつかの取り組みは、これまでの規模を上回る成果を得ることができました。特に、他の地域団体との共同企画である河北潟自然再生まつりは、飲食の提供を控えたにもかかわらず、過去最高の人出で参加者の満足度も高かったという大きな成果を得ることができました。

河北潟湖沼研究所も参加する河北潟自然再生協議会が8月に自然再生推進法に基づく法定協議会の発足を発意しました。河北潟自然再生協議会はこれまで、民間の団体から構成される地域協議会として活動をすすめてきました。その中で、活動の範囲を流域に拡げることの重要性が認識され、また、行政機関を巻き込んだ活動の展開の必要性が議論されようになりました。そこで、下流部の河北潟の関連団体だけでなく、中・上流

で活動する団体、流域の治水・利水に関係している団体・機関とともに、国や県、市町も参加した協議の場をつくることが提案され、行政、自治体の協力を得る上での法的な根拠となる法定協議会の設立を目指すこととなりました。各自治体や団体に呼びかける中で、まだその足並みは十分に揃っていないとはいえませんが、2021年度の最後に県や金沢市も参加したもとの、河北潟流域自然再生協議会準備会が発足しました。河北潟の流域における協働を進める上で重要な契機となるとともに、流域連携を志向してきた河北潟湖沼研究所としても、新たな活動につながる成果であると感じています。正式に法定協議会が発足するまでには、まだまだ紆余曲折が予想されますが、今後、流域での活動を強化し、流域の健全な水に支えられた豊かな河北潟の実現を図っていききたいと思えます。

2021年度の取り組みを推進するにあたり、会員の皆様よりの会費、多くの団体・個人の皆様よりの寄付金の他、地球環境基金、エフピコ環境基金、ゆうちょエコ・コミュニケーションより資金のご援助を賜りました。心より御礼申し上げます。

河北潟湖沼研究所は、引き続き旺盛に活動を展開していく所存です。皆様のさらなるご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

河北潟湖沼研究所 理事長 高橋 久

河北潟湖沼研究所のビジョン

< 私たちが目指す河北潟の姿 >

流域全体が無農薬となり、ヤマトシジミ、ウナギなどが生息する河北潟が復活し、潟漁が営まれて食卓も豊かになります。

水草が増えて水も透明になり、清湖のきれいな水と自然が取り戻された流域にはいろいろな地場産業が発展しています。

「河北潟」は地域に活力を与え続けます。

上記のビジョンの実現にむけて、河北潟湖沼研究所は課題を達成するための研究をおこない、研究成果を検証しながら方法を構築することをミッションとしています。また、ビジョンの実現のためには行政機関や地域の住民、産業の役割が必須であることから、多くの関係者が連携し、役割を分担してビジョンが実現できるよう呼びかけや調整に取り組んでいます。

河北潟湖沼研究所のミッション

- | | |
|--------|---|
| ミッション1 | 潟の再汽水化と自然流下の復元 |
| ミッション2 | かつての潟の水質と生物多様性に近づけるための流域管理の視点からの農薬を使わない新しい農業の確立 |
| ミッション3 | 泳げる河北潟・食べられる河北潟のために内水面漁業の復活 |
| ミッション4 | 地域産業において潟の自然環境が活かされるための河北潟ブランドの確立とエコツーリズムの展開 |
| ミッション5 | 林業の活性化による流域全体の健全化 |
| ミッション6 | コミュニティによる流域管理の手法の確立 |

河北潟を再生したい!

ビジョン実現にむけて河北潟及び大野川での調査をすすめています。また、シンポジウムやセミナーを実施し、河北潟の課題、展望を話し合い、学ぶ場を作っています。

課題

河北潟の水がなかなかきれいにならない
流域住民と河北潟との接点が少ない

取組

専門家+市民による調査の実施
流域連携をテーマにしたシンポジウム実施
農地の生きものをテーマにしたオンラインセミナー実施
「河北潟総合研究」発刊と河北潟研究奨励助成実施

2021年度の成果

大野川汽水域の現状把握
シンポジウム、セミナーにのべ112人参加
「河北潟総合研究」第24巻を発行

専門家+市民で調査実施

前年度までに引き続き、一般参加者も募りながら、河北潟の再汽水化に向けた基礎研究をすすめています。河北潟では、富栄養化や透明度の低下が問題となっていますが、私たちは再び海水の入る湖に戻す再汽水化が、ひとつの有効な解決方法であると考えています。2021年度は河北潟と海をつなぐ川・大野川での海水遡上の実態を調べたほか、クロベンケイガニの生息状況調査を実施しました。



河北潟Zoomセミナー実施

田んぼや畑の生きものをテーマにしたZoom連続セミナーを4週連続で実施、のべ50名の方にご参加いただきました。

- 第1回 2022年2月16日 「砂丘地の畑の生きもの、河北潟干拓地の哺乳類」
講師 川原奈苗(河北潟湖沼研究所)
- 第2回 2022年2月23日 「田んぼやため池の生きもの」
講師 野村進也
- 第3回 2022年3月2日 「河北潟の田んぼや畑でみられる野鳥」
講師 中川富男
- 第4回 2022年3月9日 「田んぼ・畑・生きもの・人のつながり」
講師 高橋 久(河北潟湖沼研究所副理事長)

*実施にあたり、ゆうちょ エコ・コミュニケーション寄付金を活用させていただきました。



河北潟流域シンポジウム実施

流域連携・地域連携のつくり方

2022年3月27日(日)13:00~16:30
近江町交流プラザ集会室+Zoomによるオンライン

自然環境の保全及び自然環境を活かした地域づくりをする上で、多様な主体の連携の重要性を認識するとともに、実際に各地でどのような流域連携、地域連携の取り組みが展開されているのか、連携を進める上での工夫や課題について学び合うことを目的として、全国各地の流域や水辺を取り巻く地域で活動している方々に講演いただきました。62名の方にご参加いただきました。

小倉加代子氏からは、民間主導で自然再生推進法に基づく自然再生協議会を立ち上げ、活動を続けている中海自然再生協議会の経験についてお話いただきました。菊地直樹氏からは、多様な主体による連携を進める上での重要な視点や注意すべきことについて概説いただきました。パネルディスカッションでは、各地域の取り組みを紹介いただき、それぞれの悩みや課題の中にある共通点を抽出しながら、流域や地域の中で多様な連携を進めるヒントを探りました。基本的なこととして、行政と民間の信頼関係の構築や参加した人たちの取り組みへの共感や意義を共有することの大切さが指摘されました。

*実施にあたり、地球環境基金の助成金を活用させていただきました。

<プログラム>

○主催者挨拶 高橋久(NPO河北潟湖沼研究所理事長/河北潟自然再生協議会事務局長)

○特別講演 「地域の和」「科学の目」「自然の力」を活かす～NPO発意による中海自然再生協議会～
小倉加代子氏(認定NPO法人自然再生センター副理事長/中海自然再生協議会)

○基調講演 鳥の目と虫の目の流域連携
菊地直樹氏(金沢大学先端観光科学研究センター准教授)

○パネルディスカッション「各地域ではどのようにして連携をつくり課題を解決してきたのか」

コーディネーター 菊地直樹氏

パネリスト 小倉加代子氏、石川紫穂氏(NPO法人小網代野外活動調整会議副代表)、上野山雅子氏(NPO法人中池見ねっと事務局長/中池見湿地保全活用協議会会員)、稲飯幸代氏(NPO法人徳島保全生物学研究会理事)、川原奈苗氏(NPO法人河北潟湖沼研究所副理事長/河北潟自然再生協議会)



河北潟研究奨励助成実施・河北潟総合研究第24巻発行

河北潟に関する基礎的学術資料の蓄積をはかり、地域の持続的な社会のあり方を検討すると共に、地域の研究ネットワークを広げる取り組みとして、専門的知識を持つ研究者や学生、持続的な社会の実現を目指し活動をしている方々が取り組む研究を奨励する助成を行っています。2021年度は活動に賛同いただいた方からの寄付、事業活動収益を原資として実施しました。本助成では、助成期間終了後、成果として当団体の機関誌「河北潟総合研究」に原稿を投稿いただいています。2021年度に発行した第24巻では、2018年度と2019年度に実施した助成の成果論文が掲載されています。河北潟総合研究は研究成果普及のため、会員や主な研究機関に配布するほか、ホームページでも公開し、冊子は販売も行っています。

2021年度 河北潟研究奨励助成 決定

申請者 中田勝之さん(所属:一般社団法人いしかわ自然・環境・農林業センター)
助成金額 100,000円
研究課題 河北潟及び砂丘地を含む周辺環境の昆虫相調査

機関誌・河北潟総合研究

河北潟総合研究は河北潟湖沼研究所ホームページで公開しています。

河北潟総合研究



調査・研究に参加しよう

現地調査や研究会議への参加

河北潟湖沼研究所は、研究者はもちろん、市民、企業、農家、学生、どのような方でも「研究したい」という方の参加を歓迎します。2021年度も、一般の方や大学生等に参加いただきました。ご興味のある方は、まずは河北潟湖沼研究所までお問い合わせください。

河北潟研究奨励助成への応募

毎年12月に募集を行っています。助成の対象となる研究課題は、河北潟の自然再生と環境保全、干拓地農業、地域資源の循環的利用等です。研究を行いたい、という方はどなたでもご応募できます。ご案内は当団体ホームページやメルマガ等で行っています。

農地と生きものをまもりたい!

課題

河北潟地域の田んぼの生きものが減っている、農地で使われる肥料や農薬が河北潟の水質汚濁の要因となっている

取組

必要のない農薬を使わない農地を増やし、そのお米を販売
砂丘地の畑で農薬、化学肥料を使わない野菜作りとその販売

生きもの元気米

河北潟周辺には田んぼがたくさんありますが、現在の田んぼは昔と比べ生きものの種類も数も大幅に減っています。大きな原因のひとつは、殺虫剤の一斉空中散布と、生きものすみかとなる畦の草をすべて枯らす畦の除草剤散布であると、私たちは考えています。この問題を解決する取り組みとして、2014年より生きもの元気米を始めました。①農薬の空中散布をしない+浸透性殺虫剤(ネオニコ含む)を使用しない、②畦の除草剤を使わない、という2つの条件で農家と契約し、栽培圃場では当研究所が生きもの調査を実施し、田んぼ一枚ごとに生きもの元気米認証をして販売しています。農地の生物多様性を保全し、田んぼの生きもの調査結果を公開することで、生産者と消費者の農地の環境保全への意識を高め、安心して食べられる農産物を届ける活動です。

圃場面積

2021年
52,641m²

*稲作田9枚+蓮田(レンコン)6枚

生産量

2021年
7.6トン



すずめ野菜

河北潟のとなりにある内灘砂丘地の畑で、農薬や化学肥料を使わず野菜を作っています。砂丘地で農薬や肥料の量を減らすことは、内灘砂丘から流れ込む水をよくし、河北潟の水質改善にもつながります。ここで栽培した野菜を「すずめ野菜」として、主にゆうぐれ金曜マルシェで販売しています。畑ではボランティアの受け入れも行い、農作業体験の場ともなっています。また2021年度は畑の生きもの調査イベントも実施しました。



2021年度の成果

生きもの元気米生産量、参加農家、圃場の増加
無農薬野菜栽培の継続、畑の生きもの調査実施

みんなで農業をしよう

募集中!

当団体と契約し、生きもの元気米を栽培いただける農家
田んぼや畑の農作業、生きもの調査に協力いただけるボランティア

…ご興味がありましたら、まずはお問い合わせください。詳しい活動内容等を説明いたします。

持続可能な農業をまもりたい!

課題

農家の高齢化や大規模農業化で、農地に関わる人が減り、農地の細やかな手入れが難しくなっている

取組

農地と市民をつなぐ農薬不使用の米作り
農家、企業、市民、NPO協働で水路保全活動
金沢市中心部と河北潟の農地をつなぐマルシェ実施

七豊米

七豊米は2012年より開始し、農薬・化学肥料を使わずにお米を栽培しています。田植えや稲刈りでは体験イベントを実施し、水苗代で苗作りや、畦塗り、除草等、様々な農作業をスタッフとボランティアとで実施しています。地域に昔からある米作りの技を学ぶ場、農地の環境や生きものを保全し、体感できる場として、2枚の田んぼ(約1400m²)で活動を継続しています。2021年度はのべ122名の方に農作業に参加いただきました。



外来植物除去活動

実施:河北潟地区外来植物対応方策検討会、河北潟の水辺を守り隊、グリーン・アース農地・水・環境保全組織、協力:河北潟湖沼研究所

河北潟周辺の農地の水路では、外来植物チクゴズメノヒエにより、水の流れがふさがれる、在来植物の生息場所が奪われるなどの問題があります。この除去活動を他団体と協力して実施しています。当団体は実施場所の選定や記録、当日の運営等を行っています。またヨシ群落に入るセイタカアワダチソウの除去活動や、除去した植物の有効活用等も行っています。



金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

金沢駅西イベント広場で、4月から11月まで毎週金曜夕方、河北潟周辺や干拓地で栽培された農産物を金沢駅周辺住民に直接届けるマルシェを実施運営しています。2021年は34回実施し、生きもの元気米や七豊米、おすすめ野菜等の農産物と共に河北潟の自然や環境保全活動を紹介しました。マルシェを通じて河北潟での活動を知って参加される方もおり、都市部住民と河北潟の農地をつなぐ場となっています。



マルシェ開催
情報はこちら



2021年度の成果

七豊米田んぼ作業にのべ122人参加
外来植物除去活動に56人参加
ゆうぐれ金曜マルシェ34回実施

河北潟流域全体の 保全を進めたい!

課題

流域単位の取り組みが遅れている、連携の仕組みがない

取組

自然再生推進法に基づく「河北潟流域自然再生協議会」の
設立に向けて勉強会や説明会等の実施
流域の他団体と協力した活動の実施
河北潟流域ゴミ調査の実施

河北潟流域自然再生協議会の 設立に向けた取り組み

河北潟流域で連携して環境保全活動を行う仕組みとして、「河北潟流域自然再生協議会」の設立に向けた取り組みを、地域の他団体の皆様と協力してすすめています。2021年8月1日に開催された河北潟自然再生協議会第20回総会で、自然再生推進法に基づく自然再生協議会を設立することが発意され、当団体は事務局として、様々な調整や会議の運営等を行っています。

流域の自然保護団体や農業関係者、関係する国の機関、自治体、連合町会等に参加の呼びかけを行いながら、2021年度は主に以下のような活動を実施しました。

2021年11月 2日 専門家を交えた流域連携課題抽出会議

2021年12月23日 地域向け説明会

2022年 1月31日 協議会設立に向けた勉強会

2022年 2月24日 自然保護団体関係者との協議

2022年 3月14日 自然保護団体関係者との協議

2022年 3月27日 河北潟流域自然再生協議会準備会発足、第1回会議

2022年度に5回のワークショップを実施予定で、ここで自然再生全体構想を協議のうえ作成し、2023年の春に法定協議会を設立することを目指しています。



11月2日 専門家を交えた会議



12月23日 地域向け説明会



1月31日 協議会設立にむけた勉強会

2021年度の成果

河北潟流域自然再生協議会準備会の発足(8団体が参加)

他の団体と協力した活動

河北潟クリーン作戦

主催：河北潟クリーン作戦実行委員会
事務局：河北潟湖沼研究所

毎年4月に数百名規模で実施している河北潟の一斉清掃活動です。河北潟湖沼研究所は事務局として実行委員会の開催、関係機関との調整や連絡、チラシ製作等を行っています。2021年は4月18日に実施し、あまり天候がよくない中、514名の方に参加いただきました。河北潟の湖岸8地点でゴミ拾いが行われ、約2.9トンのゴミが回収されました。



河北潟自然再生まつり

主催：河北潟自然再生まつり実行委員会
共催：河北潟湖沼研究所

毎年秋に開催され、河北潟地域で環境保全活動を行っている団体が集まり、活動をPRするとともに色々な体験プログラムを行っています。2021年は10月24日に実施、約500名に参加いただきました。河北潟湖沼研究所は準備段階から中心としてかわり、実行委員会の開催、他の共催団体との調整、広報等を行い、また当日は複数のプログラムを実施しました。



河北潟流域ゴミ調査

河北潟のどこにどのようなゴミがあるのか、どこに溜まりやすいのか、現状を把握するために、ゴミの状況を調べています。4月に行われた河北潟クリーン作戦後に、拾われたゴミの一部を詳細に調べ、どんなゴミが多いのか、記録しました。ペットボトル、発泡スチロールが非常に多く、調べたうちの半分以上がこの二つでした。その他、プラスチックゴミや空き缶、空きビン等が多く見られました。また11月と3月に、河北潟東部の湖岸と、河北潟とつながる川のうち、大宮川、津幡川、能瀬川、柳瀬川でゴミの状況を記録しました。川ではペットボトルや食品のプラ袋、カップ等のゴミが目立ち、ポイ捨てゴミがとても多いことがわかりました。9月には「津幡の水辺を守る会」にご協力をいただき、カヌーを使って湖面からのゴミ調査も行いました。湖岸では植物帯にゴミが溜まる場所があり、ゴミが多かった場所のうちの一つは、次年度の河北潟クリーン作戦の実施地点となりました。調べた結果はパンフレットにまとめ、地域に配布しているほか、ウェブでも公開しています。

*河北潟流域ゴミ調査の実施にあたり、エフピコ環境基金の助成金を活用させていただきました。



2021年度の成果

河北潟クリーン作戦に514名参加

河北潟自然再生まつりに500名参加

河北潟の湖岸のゴミの現状把握、現状をまとめたパンフレットの発行



ご支援、ご寄付ありがとうございます

河北潟湖沼研究所の活動は、たくさんの方々のご支援、ご寄付、ご協力で成り立っています。

2021年度は全体で1,051,364円のご寄付を賜ることができました。また事業活動の面からも団体、企業等のみなさまからご支援をいただきました。活動ではたくさんのボランティアの皆様にご協力をいただきました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

■ ご寄付をいただきました

- ゆうちよ エコ・コミュニケーション 500,000円
- その他個人及び団体のみなさまより 計551,364円

■ 助成金を活用させていただきました

- 地球環境基金 3,000,000円
活動名：流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する
- エフピコ環境基金 1,000,000円
活動名：ゴミゼロ河北潟の実現に向けたゴミ発生場所調査と啓発活動

■ プログラム支援をいただきました

- SOCIALSHIP2021
ファンドレイジングについて、オンラインセミナーやワークショップ等で、計画立案や広報ツール等について、学びと実践の機会をいただきました。

■ プロボノによる活動支援

2020年度にプロボノとして活動支援いただいた4名の方に、2021年度も引き続き河北潟流域ツアーや河北潟流域新聞の制作等においてご協力をいただきました。

■ ボランティアによる活動支援

活動やイベントの実施において、体験農地の整備や、イベントの準備片付け、運営スタッフの補助等で、ボランティアの皆様のご協力をいただきました。



ゆうちよ エコ・コミュニケーション寄付金を活用した畑の生きもの調査。



地球環境基金助成金を活用して製作した「河北潟流域新聞」。



プロボノの皆様による河北潟流域新聞取材の様子。



エフピコ環境基金助成金を活用したゴミ拾いとゴミ調査活動。

様々な形でのご支援、ご協力、誠にありがとうございます。

2021年度決算報告

貸借対照表

2022年3月31日

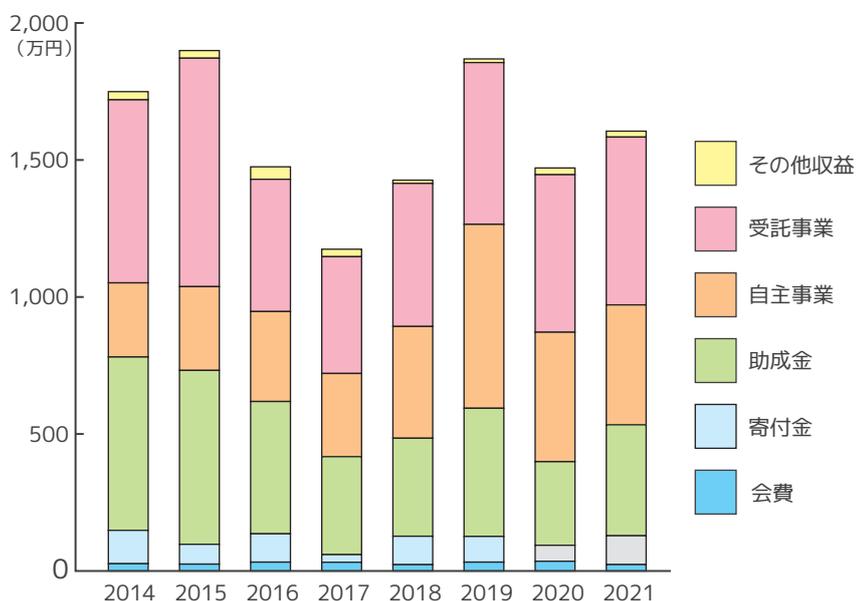
項目	金額 (円)
資産の部	
【流動資産】	
現金及び預金	1,659,404
売掛金	2,757,850
未収補助金	2,000,000
商品 (元気米在庫)	935,000
流動資産合計	7,352,254
資産の部合計	7,352,254
負債の部	
【流動負債】	
未払金	1,169,114
未払法人税等	71,000
未払消費税	481,500
預り金	16,940
流動負債合計	1,738,554
負債の部合計	1,738,554
正味財産の部	
【正味財産】	
前期繰越正味財産	4,974,900
当期正味財産増減額	638,800
正味財産の部合計	5,613,700
負債及び正味財産合計	7,352,254

活動計算書

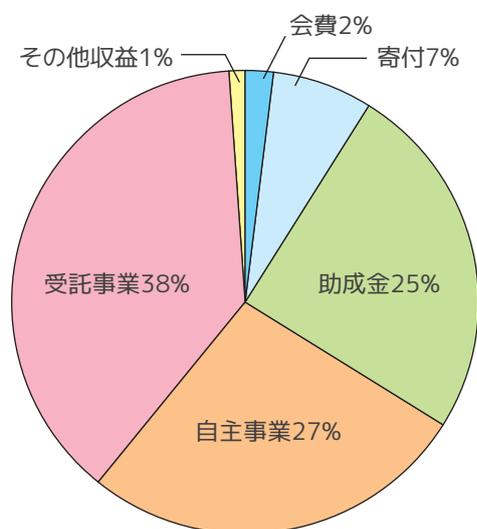
自 2021年4月1日 至 2022年3月31日

科目	特定非営利活動にかかわる事業	その他の事業	合計 (円)
【経常収益】			
受取会費	235,000		235,000
受取寄付金	1,051,364		1,051,364
受取助成金等	4,050,000		4,050,000
事業収入	7,718,620	2,780,910	10,499,530
受取利息	30		30
その他収益	216,551		216,551
経常収益合計	13,271,565	2,780,914	16,052,475
【経常費用】			
事業費			
人件費	6,299,600	1,159,288	7,458,888
その他の費用			
売上原価	1,718,395		1,718,395
租税公課	332,134	151,366	483,500
諸会費	6,000		6,000
諸謝金	474,948		474,948
リース料	350,060	935,020	1,285,080
印刷製本費	440,424		440,424
荷造運賃	310,480		310,480
外注・委託費	118,662	52,800	171,462
研究事業費	100,000		100,000
役員費(地球環境基金仕訳)	866,905		866,905
支払手数料	249,044	4,467	253,511
通信費	16,790		16,790
広告宣伝費	4,000		4,000
旅費交通費	659,680	120,000	779,680
消耗品費	969,018	3,594	972,612
経常費用合計	12,916,140	2,426,535	15,342,675
法人税・住民税及び事業税		71,000	71,000
当期正味財産増減額	355,425	283,375	638,800
前期繰越正味財産	4,683,613	291,287	4,974,900
正味財産合計			5,613,700

経常収益推移(2014~2021年度)



2021年度 経常収益割合





河北潟湖沼研究所の活動は、皆様のご支援で成り立っています。
一緒に活動して下さる方、応援して下さる方を待っています。

会員になる

会員を随時募集しています。入会ご希望の方は下記連絡先までお問い合わせください。

会員種別	年会費	備考
正会員	個人(一般) 12,000円 個人(学生) 3,000円 団体 24,000円	※機関誌「河北潟総合研究」が年1回、 通信「かほくがた」が年4回届きます。 ※河北潟カレンダーがもらえます。 ※イベントや活動案内が届きます。
サポート会員	2,000円	
団体サポート会員	50,000円～	
ボランティア会員	無料	※イベントや活動案内が届きます。

寄付をする

ご寄付で当研究所への活動支援をお願いいたします。用途を指定してのご寄付も可能です。

- 郵便振替 ゆうちょ銀行(振替口座) 00730-1-48345
加入者名 特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所
*通信欄に寄付金とご記入ください。ご住所とお名前を必ずご記入ください。
- 銀行振込 楽天銀行 第一営業支店 普通 093010
口座名義:トクヒ)カホクガタコショウケンキュウジョ
- クレジットカード 下記URLより決済ページにおすすみください。
<http://kahokugata.sakura.ne.jp/donation.shtml>



寄付ページ

購入する

うぐれ金曜マルシェのほか、下記ネットショップで生きもの元気米や七豊米、すずめ野菜、河北潟総合研究等をご購入いただけます。

- 河北潟湖沼研究所のお米屋さん <http://kahokugata.cart.fc2.com/>
- すずめ野菜 <https://suzumeyasai.cart.fc2.com/>



お米屋さん



すずめ野菜

参加する

調査研究、保全活動、体験イベント等へのご参加をお待ちしています。活動情報は研究所ホームページやSNS、メルマガ等でご案内していますので、フォローや登録をお願いいたします。また日常活動へのボランティア参加もお待ちしております。メールや電話等でお気軽にお問い合わせください。



メルマガ登録



Instagram



twitter



facebook

NPO法人河北潟湖沼研究所(かほくがたこしょうけんきゅうじょ)
〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9
電話076-288-5803 fax076-255-6941
E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp
ホームページ <http://kahokugata.sakura.ne.jp>